

「主の御降誕」メッセージ

清川 泰司 神父

このコロナ禍で、最もリスクを伴う、「御降誕祭夜半のミサ」を中止にする事を決断しました。平時であれば、「どうぞ、降誕祭のミサに来てください」と、言えるのですが、今回ばかりは、その言葉は封印されます。また、信徒の中には、このような時だからこそ、ミサに来て、神の癒しをいただきたいと思う方もおられるでしょう。しかし、この新型コロナウイルスが生み出す環境は、その思いをも封印します。私は、その最大の要因を、医療崩壊の危機としています。

約二千年前、地上にお生まれになった「イエス・キリスト」は、不安から満たされない人間の心を利用する悪魔の存在を明らかにし、そして、すべての人の救いを願う「神の御心」と繋がり生きる新しい道を開きました。このコロナ禍、どちらの道を歩むのかの想像性が問われているのです。

(降誕祭夜半のミサ中止についての動機)

感染予防を徹底できない不安から、大阪教区内の一部の教会で、降誕祭の夜半の公開ミサ中止を決断しました。12月19日に、前田万葉大司教も、この公開ミサ中止にあたっての配慮について文章を発表しました。この大司教の発表が、高槻教会での降誕祭夜半のミサ中止を決定する動機となったのです。

(降誕祭夜半のミサ中止を決断した要因)

① 感染予防の難しさ

カトリック高槻教会は、大阪教区内、また地域においても有名な教会です。そして、大阪と京都の中間にあり、駅から近いという立地条件から、例年、不特定多数の人が降誕祭夜半のミサに参加します。また、日ごろミサに来ていない信徒の方々も、この日は多数参加します。これらの方々の多くは、教会の感染予防についての情報を知りません。さらに、降誕祭が近づくにつれ、降誕祭夜半のミサの時間の問い合わせが多数あります。これらの状況からも、降誕祭夜半のミサの感染予防の難しさを感じていました。

② サポートをしてくださる信徒の方々の負担

コロナ禍の続く中、公開ミサ再開(6月7日)から、献身的に、主日のミサの受付や様々なサポートをしてくださっている信徒たちがおられます。これらの信徒たちのお陰で、これまで公開ミサを続けることができました。しかし、今回の降誕祭夜半のミサは、どのような状況に成るかが予想できませんでした。また、人数制限された中、聖堂に入ることのできる人、入れない人を選別しなければならない状況も生まれます。このような状況に陥った時、サポートをして下さる信徒の方々に、さらなる負担をかけることも心配でした。

③ 医療崩壊(トリアージ=命の選別)の防止と祈りへの招き

数日前から、知り合いの医療従事者の方々が口をそろえて、「神父さん、もう医療崩壊は始まっていますよ」という言葉を聞いてきました。実際、高槻市内で、他の市の救急車両を目にします。こんな現象から、受け入れ先がない重篤な患者の存在もあり、平時であれば助けられた命が、死に至るケースを生んでいることが想像できます。しかも、医療関係者の中には、肉体的にも、精神的にも疲れ果てている方もおられます。また、後ろ髪をひかれる思いで、看護師を休んでいる方もおられると聞きます。この状況から、命の選別に直面しているのです。つまり、自分が救われても、他の人が救われないという現象が起こっているのです。

(感染が広がっている期間、公開ミサの参加を控えてください！)

降誕祭ミサ(12月25日)の公開ミサは行いますが、降誕祭の状況を見て、神の母聖マリアのミサ(1月1日)は公開ミサの開催を検討します。まずは、医療崩壊を鑑み、ミサへの参加を控えてください。それぞれの場で心を合わせ、医療従事者、コロナ関連により苦しむすべての人々の為に祈りましょう。

「不安から、信仰の本質へ」

当たり前のように、経済的豊かな国に生きる、日本のカトリック信徒との関りの中、福音に基づく信仰の知恵が生活に生かされていないことを感じてきました。信仰を深める人たちは、自己を取り巻く不安な状況から、神への信仰により平安を獲得する知恵を持っています。その基礎にあるのが「イエス・キリスト」がこの世に示した「神の御心」を知る事です。

古今東西、どの人間も、人生の中で不安に陥る時があります。今、私は、不安な時、神への信仰から、他者の為、世界の為に祈ることで、随分、救われてきました。そして、その救いの実感は、キリストに対して無知であった時の苦い体験が基礎にあるのです。

その苦い体験とは、不安に陥った時、自己の平安を祈り求める事で、より不安に陥る体験と、その場しのぎの平安を得て満足に陥る体験です。その両者の共通点は、利己心と無関心を増幅させ、視野が狭くなり、その牢獄から抜け出せない状態に陥る事です。そして、その牢獄に在ることを自覚させ、牢獄から抜け出す術を、福音のイエスを理解する事で見出したのです。

福音のイエス・キリストが伝えた「神の御心」との繋がりは、自己の救いから解放され、すべての人、万物の救いへの想像性を生みます。そして、このことにより、より客観的広い視野を得るのです。この救いを実感すると、どのような状況にあっても、自己の心の中にすべての人、万物の救いを望む「神の御心」と繋がっているという平安を得るのです。さらに、すべての人の救いという命題により、利己的救い、その場しのぎの救いを求める事から解放され、キリストが人類にもたらした、真の救いを伝えようとするのです。

カトリック教会は、ミサを通して、他者への祈り、世界の平和への祈りにより神との繋がりを信者に促し、秘跡により、その「神の御心」に繋がる機会を作っています。それは、人間が、「神の御心」に向かうのか、欲望と利己心と正義感を巧妙に利用する「悪魔の誘い」に向かうのかの分岐点を知っているからです。その上で、信徒を「神の御心」へ導くのです。これが本来のミサの意味なのです。

人類史を見た時、人間は不安から悪魔に誘われ対立、戦争、粛清、差別という悲劇を繰り返してきました。福音を基準に歴史を見れば、むしろ、カトリック信者が、「神の御心」に対する無知と欲望により、簡単に、悪魔に加担してしまった事を否定できません。それがゆえに、本当の意味で、拙い自分の思いを捨て、「神の御心」に従う信仰の重要性を感じるのです。

皆さんにとって公開ミサの中止、また、ミサに参加できないことで、ご聖体をいただけないのは残念なことでしょう。しかし、ここで一度立ち止まって、ご聖体に成られた方(キリスト)の御心を理解する事から、広い視点で本当の意味での平和を想像してください。その中で、本当の意味で、ミサ、そして祈りがもたらす意味を実感してください。

すべての人、万物の救いを望む「神の御心」を地上に示すために来られた救い主イエス・キリストの誕生を、それぞれの場で、真に祝いましょう。救い主を人類に遣わした「神の愛」に感謝して・・・。